

- 問1 戦国大名の本拠地として発達した「城下町」の形成と役割について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2017年 大分県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住ませ、政治・軍事・経済の拠点とした。 | 2. 農民が武器を持って城下町に集まることを推奨し、有事の際の防衛力を高めた。 | 3. 戦乱による被害を避けるため、城の周囲には武士のみを住ませ、商人には立ち入りを禁じた。 | 4. 海外との貿易を独占するため、すべての城下町は海岸沿いの港町に隣接して造られた。 |
|---|---|---|--|
- 問2 戦国大名が「分国法」を定めた目的や、その内容に共通する特徴として最も適切なものはどれですか。（2023年 静岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------------------|---|--------------------------------------|---|
| 1. 江戸幕府の許可を得て、大名同士の婚姻を制限し、軍事力を抑え込むこと | 2. 家臣同士の私的な争いを禁じ、大名の強力な権限で領国内の秩序を維持すること | 3. 鎌倉幕府が定めた武士の慣習を全国一律に適用し、朝廷の権威を守ること | 4. キリスト教の布教を制限し、特定の寺社を保護して領国内の思想を統一すること |
|--------------------------------------|---|--------------------------------------|---|
- 問3 鎌倉時代において、3代執権の北条泰時が「御成敗式目（貞永式目）」を制定した目的や背景を説明したものとして、最も適切な内容を選びなさい。（2015年 岡山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 今川義元などの戦国大名が分国法を作ったことに対抗し、全国の武士が幕府に対して絶対的な忠誠を誓うための精神的な規範を示す必要があった。 | 2. 元寇（モンゴル襲来）による出兵で困窮した御家人の不満を解消するため、借金を無償で帳消しにする徳政令の仕組みを全国に広める必要があった。 | 3. 平将門の乱を鎮圧した後に生じた関東地方の混乱を収めるため、貴族の法律である律令を武士にも厳格に適用することを目的とした。 | 4. 承久の乱のあと、新しく任命された地頭と、貴族などの荘園領主との間で土地をめぐる争いが増えたため、公正な裁判の基準を設ける必要があった。 |
|---|--|---|--|
- 問4 15世紀後半、ポルトガルの支援を受けたバスコ・ダ・ガマが、リスボンを出発してアフリカ大陸南端の喜望峰を経由し、到達に成功した地域はどこですか。（2020年 新潟県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|----------|--------|----------|
| 1. 中国 | 2. カリブ諸島 | 3. インド | 4. 北アメリカ |
|-------|----------|--------|----------|
- 問5 会津地方を治めた蘆名氏や伊達氏が活躍していた日本の戦国時代において、世界で同時に起こっていた出来事として最も適切なものはどれですか。（2018年 福島県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|--------------------------|
| 1. アラビア半島でムハンマドがイスラム教を創始した | 2. フランスで市民が自由と平等を求めて革命を起こした | 3. ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した | 4. アメリカで奴隷制をめぐる南北戦争が勃発した |
|----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|--------------------------|
- 問6 平安時代中期から安土桃山時代にかけて、武士が政治の主導権を握っていく過程で起きた次の4つの出来事を、発生した時期の古い順に並べたものとして正しい説明を選びなさい。 1. 平将門が関東で反乱を起こし、「新皇」と称した。 2. 平清盛が武士として初めて最高官職である太政大臣に就任した。 3. 北条泰時が、御家人の裁判の基準を明確にするため御成敗式目を制定した。 4. 織田信長が、室町幕府の将軍であった足利義昭を京都から追放した。（2015年 岡山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 「平将門の乱」→「御成敗式目の制定」→「平清盛の太政大臣就任」→「織田信長による足利義昭の追放」 | 2. 「平将門の乱」→「平清盛の太政大臣就任」→「織田信長による足利義昭の追放」→「御成敗式目の制定」 | 3. 「平清盛の太政大臣就任」→「平将門の乱」→「御成敗式目の制定」→「織田信長による足利義昭の追放」 | 4. 「平将門の乱」→「平清盛の太政大臣就任」→「御成敗式目の制定」→「織田信長による足利義昭の追放」 |
|---|---|---|---|
- 問7 戦国時代に各地を支配した戦国大名の多くは、「下剋上」という風潮の中で台頭しました。この時代における「下剋上」の説明として、当時の社会状況をふまえた最も適切なものはどれですか。（2016年 静岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 下の者が実力で上の者に打ち勝って地位を奪い、新たな領主として領国支配を広げていった。 | 2. 朝廷の権威を背景とした下級武士が、実力行使によって幕府の政治を批判し、地位を向上させた。 | 3. 幕府から任命された守護が、自らの実力を高めて隣国を吸収し、支配権を世襲していった。 | 4. 農民たちが宗教的な団結を強めることで、武士の支配を実力で排除して自治を行った。 |
|---|---|--|--|
- 問8 室町時代の後半から戦国時代にかけて、各地で戦国大名が勢力を伸ばした背景として最も適切な説明はどれですか。（2024年 秋田県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 特定の家柄のみが政治を独占する「門閥政治」が行われ、それに反発した新興勢力が台頭したため | 2. 幕府が各地の有力な農民に領地を分け与え、新しい支配層として育成したため | 3. 幕府の権威が衰え、身分の低い者が実力で上の者をしのぐ「下剋上」という風潮が強まったため | 4. 朝廷の権威を重んじる「尊王攘夷」の考えが広まり、幕府を打倒する勢力が現れたため |
|---|--|--|--|
- 問9 1543年、九州南方の種子島に漂着した船に乗っていた人々によって、日本に初めて鉄砲が伝えられました。このとき、日本に鉄砲を伝えたのはどこの国の人々ですか。（2014年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|----------|-----------|----------|
| 1. スペイン人 | 2. オランダ人 | 3. ポルトガル人 | 4. イギリス人 |
|----------|----------|-----------|----------|
- 問10 将軍のあとつぎ問題などを原因として1467年に発生し、約11年間にわたって続いた戦乱は、幕府の力を決定的に弱め、社会全体に「下剋上」の風潮を広める大きな契機となりました。この戦乱の名称を選びなさい。（2020年 千葉県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1. 島原の乱 | 2. 承久の乱 | 3. 観応の擾乱 | 4. 応仁の乱 |
|---------|---------|----------|---------|
- 問11 1543年、九州の南方に位置する種子島に漂着した中国船に乗っていた人々によって、日本に初めて鉄砲が伝えられました。このとき、日本に鉄砲を伝えたのはどこの国の人々ですか。（2016年 千葉県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|-----------|----------|----------|
| 1. スペイン人 | 2. ポルトガル人 | 3. イギリス人 | 4. オランダ人 |
|----------|-----------|----------|----------|
- 問12 島根県にある石見銀山が、2007年に世界文化遺産に登録された歴史的な背景や理由として最も適切な説明を次の中から選びなさい。（2016年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 飛鳥時代に日本で初めて銅が発見された場所であり、日本最古の貨幣である和同開珎の原料を供給したため。 | 2. 16世紀から17世紀にかけて大量の銀を産出し、アジアだけでなくヨーロッパ諸国との貿易においても重要な役割を果たしたため。 | 3. 明治維新後に政府によって官営模範工場が設置され、日本の近代産業の発展を象徴する場所となったため。 | 4. 瀬戸内海の手運を利用して全国に銅を供給し、江戸幕府の貨幣制度の安定を支えた最大の拠点であったため。 |
|--|---|---|--|
- 問13 加賀の一向一揆が、同時期に発生した「土一揆」などの他の社会運動と異なり、守護大名を倒して約100年もの長期にわたる自治を維持できた最大の要因として、最も適切なものはどれですか。（2026年 高知県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 加賀国においてのみ、鉄砲などの新式兵器を導入するための自由貿易港が独占的に認められていたから。 | 2. 浄土真宗（一向宗）という宗教的な信仰を通じて、農民や地侍が極めて強固に団結していたから。 | 3. 惣村と呼ばれる村の自治組織が、室町幕府の将軍から直接的な軍事的支援を受けていたから。 | 4. 守護大名が自ら権限を放棄し、農民たちに土地の所有権と徴税権を全面的に譲渡したから。 |
|--|---|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住まわせ、政治・軍事・経済の拠点とした。	戦国大名は、それまで各地の領地に散らばっていた家臣を城の周囲に集住させることで、軍事的な動員を容易にし、統制を強めました。また、商工業者も呼び寄せることで、武器の製造や物資の流通を活発化させ、領国の経済を発展させました。これが後の近世都市の原型となりました。
問2	答え 2 家臣同士の私的な争いを禁じ、大名の強力な権限で領国内の秩序を維持すること	戦国大名は、家臣たちの私的な争いが領国の混乱を招くことを防ぐため、武力による解決を禁じました。多くの分国法では、争った両者を理由に関わらず処罰する「喧嘩両成敗」の原則などが盛り込まれ、大名が絶対的な裁判権を持つことで領国支配を強めようとしていました。大名同士の婚姻制限は江戸時代の武家諸法度の内容です。
問3	答え 4 承久の乱のあと、新しく任命された地頭と、貴族などの荘園領主との間で土地をめぐる争いが増えたため、公正な裁判の基準を設ける必要があった。	1221年の承久の乱によって鎌倉幕府の支配が西日本まで拡大しましたが、その結果、各地で地頭と荘園領主（公家や寺社）との間で土地管理や年貢をめぐる紛争が頻発しました。北条泰時は、武家社会の慣習に基づいた公平な裁判を行うための明確な基準として1232年に御成敗式目を定めました。これは武家独自の最初の法典であり、後の武家政治の大きな手本となりました。徳政令は13世紀末の永仁の徳政令が有名ですが、御成敗式目の制定目的とは異なります。
問4	答え 3 インド	ポルトガルは香辛料などの直接取引を目指し、大西洋を南下してインドへ至る東回り航路の開拓を進めました。1498年にバスコ・ダ・ガマがカリカットに到達したことで、イスラム商人やイタリアの諸都市を通さずにアジアと直接貿易を行う道が開かれました。
問5	答え 3 ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した	日本の戦国時代は主に15世紀後半から16世紀にかけての時期を指します。この時期、世界ではルターによる宗教改革が始まり、キリスト教の世界に大きな変化が起きていました。南北戦争は19世紀、フランス革命は18世紀末、イスラム教の創始は7世紀の出来事であり、日本の戦国時代とは時期が異なります。
問6	答え 4 「平将門の乱」→「平清盛の太政大臣就任」→「御成敗式目の制定」→「織田信長による足利義昭の追放」	平安時代中期の10世紀に起きた平将門の乱は、武士の実力と地方勢力の台頭を象徴する出来事です。その後、12世紀後半に平清盛が平氏政権を樹立し、武士として初めて太政大臣となりました。鎌倉時代の1232年には、承久の乱後の社会混乱を収めるため北条泰時が御成敗式目を制定しました。そして戦国時代末期の1573年、織田信長が足利義昭を追放したことで室町幕府は滅亡し、中世から近世へと時代が大きく動くことになりました。
問7	答え 1 下の者が実力で上の者に打ち勝って地位を奪い、新たな領主として領国支配を広げていった。	戦国時代には、本来は主君に仕える立場であった守護代や国人などが、武力などの実力によって守護大名を追放したり、倒したりして自らが戦国大名へと成長する事例が多く見られました。これにより、室町幕府の任命に基づかない新しい支配体制が各地に形成されました。他の選択肢は一向一揆や守護大名の強化、幕末の動きを説明したものです。
問8	答え 3 幕府の権威が衰え、身分の低い者が実力で上の者をしのぐ「下剋上」という風潮が強まったため	14世紀から15世紀にかけての年表をたどると、幕府の統制力が弱まると同時に、各地で実力主義による勢力争いが激化していることがわかります。この「下剋上」の動きによって、従来の守護などの家柄に関係なく、軍事力や政治力のある者が戦国大名として自立していきました。
問9	答え 3 ポルトガル人	16世紀半ばの1543年、種子島に漂着した船に乗っていたポルトガル人によって鉄砲（火縄銃）がもたらされました。この出来事は、その後の日本の戦術や城郭の構造、さらには社会構造そのものを大きく変える契機となりました。当時の日本は戦国時代であり、新しい武器としての鉄砲は各地の戦国大名の間で急速に普及していきました。
問10	答え 4 応仁の乱	この戦乱によって政治の中心地である京都が荒廃し、将軍や幕府の権威が失墜しました。その結果、地方の武士たちが幕府の指示を仰がずに実力で領地を奪い合うようになり、下剋上の世の中、すなわち戦国時代へと突入していきました。
問11	答え 2 ポルトガル人	16世紀半ば、東アジアに進出していたポルトガル人が、種子島に漂着した中国船に乗っていたことから、日本に初めて鉄砲がもたらされました。当時の種子島島主であった種子島時堯（ときたか）がこれを買取り、国産化を命じたことで、日本国内での製造と普及が始まりました。
問12	答え 2 16世紀から17世紀にかけて大量の銀を産出し、アジアだけでなくヨーロッパ諸国との貿易においても重要な役割を果たしたため。	石見銀山は、最盛期には世界の銀産出量の約3分の1を占めていたと言われるほど生産量が多く、大航海時代の欧州諸国の地図にもその存在が記されていました。また、銀山を運営するにあたって周辺の森林を過剰に伐採せず、持続可能な資源管理を行っていた点も、世界遺産としての高い評価につながっています。
問13	答え 2 浄土真宗（一向宗）という宗教的な信仰を通じて、農民や地侍が極めて強固に団結していたから。	加賀の一向一揆の最大の特徴は、浄土真宗の信仰に基づく組織的な団結力にあります。各地の寺院を拠点に、武士だけでなく一般の農民までが教えのもとに結集したことで、従来の守護大名の支配を跳ね返すほどの軍事力と政治力を持つに至りました。この宗教的なネットワークが、単なる不満による一時的な暴動（土一揆）とは異なる、持続的な自治体制を支える基盤となりました。